

地域連携で創る『道徳教育論』

平間信雄

●要約

小論は、実践記録である。

その実践の柱は次の五つである。

- ①学校現場の外部講師の協力
- ②授業応援団の組織化
- ③共同の基盤としての『授業テーマ』の設定
- ④学生による道徳教材の開発
- ⑤学生による道徳授業の実践

五つの柱は、実践の特色であり、学生の成長の糧であった。

大学における道徳教育論の『創造』にチャレンジした実践記録でもある。

●キーワード

実践的道徳教育論

道徳教育論の創造

外部講師

授業応援団

授業テーマ

学生による道徳教材の開発

学生による道徳授業の実践

● 章節構成

はじめに

- I 『稚内北星学園大学式』 道德教育論の誕生
二人の講師と四人の道德授業応援団
- II 連携の力を創る『授業テーマ』
- III 学生の感動が授業を創り、やる気を育てる
- IV 学生による道德研究授業をめざして
 - (1) 稚内西中学校の願いに応えるボランティア活動
 - (2) 自作の道德教材づくりの可能性と限界性
 - (3) 『稚内北星学園大学発・道德教科書』ができた！
 - (4) 道德自作教材『代表作・五篇』の紹介
- V 『あの一言』で チーム授業をしよう！
 - (1) 二つの講座を経て授業に挑戦
 - (2) 道德授業『あの一言』の指導案
 - (3) 道德授業『あの一言』の生徒感想
- VI 地域と連携した『道德教育論』の成果と課題
- VII まとめにかえて

はじめに

大学は道德教育に強い教員資格者を育てなければならない。実践的道德教育が日本の教育課題になっているからだ。そのために新学習指導要領では従来にない研究と検討が加えられた。しかし、学校現場の授業に具体化するには課題が大きく、悩みは深い。

本学の授業では、こうした現状を踏まえ、可能性を切り開く課題に挑戦してきた。そのためには道德教育論の授業テーマを特別に設け、そのテーマを地域関係者に開き、そのテーマを土台に地域と連携した道德授業の計画を創りあげた。それが「道德を教えることができるか！～夢-教材化-授業への挑戦～」である。授業テーマ設定は、地域連携の共通基盤となった。

その結果、授業内容が充実し、稚内の各中学校の優れた教育実践家や学校経営者が外部講師として授業づくりに参加し、テーマから学び、人から学び、社会から学び、学生自らが道德授業の主体者となる意欲を高め、道德教育の自作教材を開発するまでに至った。

成果はそれだけに留まらず、その開発した自作教材で道德授業の指導案を作成し、7月17日(金)稚内西中学校(校長：但田勝義)で中学三年生(7人)を対象に道德の研究授業を実施することができた。

大学の道德教育論の授業は、理論のみに陥ったり、机上の理論に偏ったりする弱点がないとは言えない。こうした傾向を克服しようと、今年度稚内北星学園大学では地域との連携を特色にした道德教育論の授業を展開した。

それがなぜ可能だったのか、その経過はどうだったのか、その結果学生達はどんな力が育ったのかなどを事実在即して可能な限り検証してみたい。

I 『稚内北星学園大学式』の道徳教育論

～二人の講師と四人の授業応援団～

大学の道徳教育論を担当するにあたって、担当講師（筆者）に求められた課題は、「実践的な側面を重視した道徳教育論の授業展開」（張江洋直学部長/池田裕子准教授）であった。学校現場経験37年間の私であっても、その要請課題を真正面から受け止めるにはあまりにも非力であった。

「前半の『理論編』は私が担当しますので、後半を平間先生にお願いします」池田准教授の配慮で14時間のシラバスは次の通り準備されていた。

学習教育の目標

2008年3月に公示された学習指導要領では、道徳教育の徹底が方向づけられ、道徳教育のあり方が問われる形となっている。道徳教育は学校教育のみならず、地域社会とのつながりという観点からも重視されているのである。本講義では、道徳教育について、理論と実践の両側面をふまえ、包括的に理解を深めることを目標とする。

授業の概要および学習上の助言

戦後日本における道徳教育がどのように推移してきたかを理解したうえで、今後道徳教育を行う側として、どのような展開方法があるのかを、実践例も交えて検討する。10講目以降は、道徳の授業案を作り、模擬授業を行うところまで指導する。受講生は、講義を通じて自分なりの道徳教育についての観点を育てて欲しい。

学習内容

- 1 ガイダンス（道徳教育の意義）
- 2 道徳教育の歴史（戦前編）
- 3 学習指導要領と道徳教育(1)道徳の位置づけを中心に
- 4 学習指導要領と道徳教育(2)指導内容と方法を中心に
- 5 道徳教育と生徒指導
- 6 道徳教育と特別活動
- 7 道徳教育と教科・総合的な学習
- 8 『心のノート』について考える
- 9 地域・家庭における道徳教育
- 10 さまざまな道徳の授業実践
- 11 道徳の授業づくり(1)道徳の授業づくりのポイント
- 12 道徳の授業づくり(2)道徳の教材研究の工夫
- 13 道徳の授業づくり(3)道徳の指導計画の立案
- 14 道徳の授業づくり(4)模擬授業の実施と研究協議
- 15 道徳の授業づくり(5)模擬授業の評価と指導計画の改善

道徳教育の目標は「学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う」（学習指導要領）ことである。

そのための方法は「各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及び人間としての

生き方についての自覚を深め、道徳的实践力を育成」(学習指導要領)しなければならないとしている。

いまや求められる学校現場の教師像はこうした視点に立ち、道徳教育の内容と指導計画の取り扱いに習熟しなければならない。自らの専門教科・自らの担当学級・自らの担当分掌のみに固執し、与えられた領域だけの仕事を達成するだけでは不十分である。いわゆる道徳教育に強い教員が求められている。言うなれば『専門性と人間性を兼ね備えた教師』の養成であろう。

池田准教授から私に示されシラバスは、学習指導要領にある「総合性」を踏まえること 全国の大学で実施している道徳教育論のシラバスの「共通性」を踏まえること そのうえで、稚内の「地域性」を生かした『魅力』・『創意』・『連携』を付加してほしいという願いが託されていた。

特に三つ目の願いは、学習指導要領がねらっている道徳教育の指導計画の作成と内容の取扱いの視点を創造的に取り入れた稚内北星学園大学としてのシラバスの改善・創造を意味していた。言うなれば『道徳教育論の実践的創造』を担わされたのである。

筆者は、「池田先生と私のコンビで授業を創造しましょう」「その上で『ゲスト講師』を組み込んだ授業計画を創りましょう」と提案した。池田准教授は快諾してくれた。

こうして道徳教育論の二人の担当者は授業方針を練り上げて視点を共有し、四人の授業応援団の協力を得て、『稚内北星学園大学式』の道徳教育論のアウトラインが出来上がった。

『稚内北星学園大学式』道徳教育論の五つの目標

- ① 道徳教育の核となる魅力的な道徳教材の開発と活用に挑戦する
- ② 各大学の先進的なシラバスに学ぶと同時に地域性を生かしたシラバスをつくる
- ③ 学校現場の優れた教育実践家や関係者の支援を得て、授業を地域に開く
- ④ 学生自身のボランティア活動を醸成し、子ども理解が深まる計画をつくる
- ⑤ 教材作成・指導案作成・研究授業を通じて学生の『チーム力』を養成する

『稚内北星学園大学式』道徳教育論の最終シラバス

- 1 ガイダンス (道徳教育の意義)
- 2 道徳教育の歴史 (戦前編)
- 3 学習指導要領と道徳教育(1)道徳の位置づけを中心に
- 4 学習指導要領と道徳教育(2)指導内容と方法を中心に
- 5 道徳教育授業を聴く 吉崎健一先生を招いて 授業応援団の参加
- 6 道徳授業を振りかえる 吉崎健一先生に学ぶ
- 7 道徳自作教材づくり ワークシートを使って
- 8 道徳自作教材づくり //
- 9 道徳自作教材づくり
- 10 道徳授業の学校参観 稚内中学校二年 吉崎健一先生の授業参観
- 11 道徳授業指導案の作り方 稚内中学校長菅野剛氏を招いて
- 11 道徳授業のすすめかた 稚内西中学校長但田勝義氏を招いて
- 12 道徳研究授業に向けての準備 (演習)

- | | | |
|----|-----------------------|----------|
| 13 | 道德の研究授業 稚内西中学校三年生道德授業 | 授業応援団の参加 |
| 14 | 道德教育論を振り返って | 授業応援団の参加 |

四人の授業応援団の紹介

表 純一	稚内市教育委員会教育部長・稚内北星学園理事
但田 勝義	稚内市立稚内西小中学校 校長
菅野 剛	稚内市立稚内中学校 校長
吉崎 健一	稚内市立稚内中学校 教諭

II 連携の力を創る『授業テーマ』

『稚内北星学園大学式』の道德教育論を具体化するコーディネーター役は、筆者である。大学にとっての有益性だけでなく、学校現場にとっても有益性を感じることのできる双方向型の協働コーディネーターの役割が求められた。結果として『押しつけ』になったり、『一方的』になったりする場合があるからだ。

『稚内北星学園大学式』の道德教育論の講座コーディネーターの最初の仕事は、優れた「道德教育推進教師」の発掘と「道德授業応援団」・「ゲスト講師」の依頼であった。

この課題に真正面から応えてくれたのが稚内中学校の吉崎健一教諭であった。氏は常々、稚内北星学園大学に期待を寄せ、地域に根ざした教師育成を願い、自らは学校現場の先頭に立って道德教育の実践を積んでいた。

さらに、但田勝義氏（稚内市立稚内西小中学校長）と菅野 剛氏（稚内中学校長）の二氏の校長が「道德授業応援団」を引き受けてくれた。学校に求められている道德教育の機能性や総合性を考えたとき、学校経営者の経営方針との関連を重視する視点が重要だ。二氏は、道德教育が求めている「専門性と総合性」を兼ね備えた教師の育成をめざして学校現場で活躍している経営者であり、授業応援団として最適の方々であった。

加えて、教育行政を代表して稚内市教育委員会教育部長の表 純一氏（稚内市教育委員会教育部長・稚内北星学園大学理事）も「道德授業応援団」になってくれた。氏は、稚内市の教育の基本を『市民ぐるみの子育て運動』に据えている教育行政の推進者であった。また「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる大学に徹し、宗谷・稚内とともに発展する大学教育行政を推進している大学を目指す」（佐々木政憲学長）大学づくりの最大の理解者でもあり、推進者でもある。こうして合計四人の「道德授業応援団」が誕生した。

大学が道德教育の実践面を強化するためには、地域との連携を重視した授業計画を構想することである。しかし、それだけでは不十分である。さらに一歩踏み込んで、大学の授業づくりへの具体的に参加を位置づけることがどうしても必要だ。そのためには、授業づくりの共通基盤を明確にすることから始めなければならない。この見地から設定したのが『道德授業のテーマ』である。それが「道德を教えることができるか！～夢-教材化-授業への挑戦～」という授業テーマであった。

開かれた大学になるためには、実現可能なところから地域の教育資源を大学の授業に取り入れることが必要であるが、授業テーマを地域に開き、そのテーマの賛同を得て協力・協働するのはあまり例

がない。稚内北星学園大学の「道徳教育論」の授業計画はそれを可能にした。この授業テーマの設定がその後の取り組みに生きて働き、学生の感動と学校現場との連携を豊かにする力になった。

地域連携と道徳授業づくりの視点は、『この指止まれ！』の一方通行ではなく、授業テーマを地域・関係者に開き、そのテーマに賛同する方々の参加を通じて協力協働することが大切である。学生はその輪に依拠しながら自覚を高めて成長するからである。

Ⅲ 学生の感動が授業を創り、やる気を育てる

道徳授業応援団の一人・吉崎先生をゲスト講師に迎えて、5月15日(金)に道徳授業を実施した。吉崎健一教諭の講演テーマは「教師への夢～現在・過去・未来～」

宗谷で生まれ、宗谷に育ち、宗谷の地域で教壇に立つ吉崎教諭は「皆さんが持っている『教師の夢』と私が持っている『教師の夢』を交流できたらいいなあって思っています」と快諾してくれたのである。

【講演レジメ】

①ウォーミングアップ・・・10分 参加していただいている皆さんも一緒に

「船が危ない」・・・夢バージョン

発問①一番最初に捨てるのはどれですか？それはなぜですか？

発問②最後に残したいのはどれですか？それはなぜですか？

②教師への夢～過去篇・稚内小学校時代～

新卒時代の私の教師への夢

真剣にめざしたものは

道徳との出会い・・・『命の授業』あなたの一番大切な人は？

小さな学校から荒れる中学校へ・・・荒れるこどもたちから学んだこと

教師人生の支えとなっている2冊の本と大切な人との出会い

③教師への夢～現在篇・稚内中学校時代～

久しぶりの担任

保護者・地域の皆さんに支えられて・・・保護者応援歌

三年目を迎えて・・・教務部長として

④教師への夢～未来篇・宗谷を愛する教師として～

みなさんにお願ひがあります・・・

『充実した授業』 その時の感想を学生A君は次のように述べている。

先日は道徳教育論の授業の中で外部の先生を招いていただき、本当にありがとうございました。非常に自分のためになるお話を聞くことができました。

実は教職に関して悩んでいることがあったので、大変参考になりました。

最初に吉崎先生がお話された、夢・勉・友・遊・金の話で、僕は最初に金を捨てると言いました。ただ、本当は最初に夢を捨てようと思ったのです。

僕には今、教職以外に就きたい職業があります。そのことで友人に相談したら、「別に目指してもいいんじゃないか。片方がもう片方の妨げにならなかつたら両立できるものなんだろう」と言われて、少し自信が持つことができましたが、今回の授業でその自信がより強くなりました。因みに、先の5個を順番に捨てるとしたら、金・遊・勉・夢・友の順番です。

また、道徳の授業方法で本物の遺書を使ったというのはすごく印象に残りました。中学生だったら、もう『生・死』についてはっきり理解しているはずなので、それに直結するものというのは心に深く刻まれるかと思います。

『人間って素晴らしい』の詩を授業後、もう一度拝見しました。実はこの詩を見ていた授業中、少し涙腺が緩くなっていました。感動とは少し違う不思議な感情でした。

最後になりますが、本当に充実した授業を受けることができました。また機会があれば是非お願いします。

『感動』 また学生B君は、次のように述べている。

今回、吉崎先生のお話を聞くことができ、とても良かったと思います。特に『人間って素晴らしい』の文章には、とても感動し、他の文章を呼んでみたいと感じました。私はまだ人間は素晴らしいと思うことがない分、これからいろんな人と関わりを持つことの面白さを感じます。また、人体の金額が3,000円というとても安い金額に驚きました。

私が教師になろうと思ったきっかけは、印象の強い先生に出会ったわけではなく、初めて誰かに何かを教えたときに優越感を感じたからなのかもしれません。しかし、現在は人間の偉大さを感じ、自分自身誰かに世話をかけるという性格、教えることの面白さなどを感じ、ボランティアを通じて様々な人に関わっていくことが教師として幅を広げる一つの手段なのかも知れないと思っています。将来は、今までに出会ったことのない先生になること、そして、私自身にしかできない「これといえば先生だ。」と言われるような先生になりたいと思っています。

今回ウォーミングアップとして行った内容を後輩たちに行った結果、最後には「遊」、「金」、「友」などを残し様々な意見が飛び交い、授業終了後にもかかわらず、とても盛り上がりました。

最後に稚内中学校で実際に行われる予定の道徳の授業を聞いてみたいと思いました。

『生涯忘れません』 さらに学生C君は、次のように述べている。

池田先生、平間先生、まずはこのような素晴らしい講義を開いて頂き誠に感謝しております。私は本当に幸せであります。

教室へ足を踏み入れた時、心の奥から歓喜の声が出た。後方にはスーツを着た3人の先生、そして、前方には鮮やかに飾られた学級旗といつもとは気の入り方が違った平間先生と池田先生と初対面の吉崎先生がおられた。このような、準備に気合いの入った講義は生まれて初めてだった。我々学生が主役だということが誰の目からもはっきり伺えた。

今回の講義のテーマは夢だった。吉崎先生が過去・現在・未来の視点からご自身の夢を教えても

らった。この講義のおかげで私の「教師への夢」に対する情熱が一層増した。

ただ、今回私の一番の収穫はそれではない。

学生時代の私を振り返ると、非行を繰り返したり問題行動ばかり起こしてきた。そんな私でも教師の夢をあきらめることができなかった。過去の私は教師になることで頭がいっぱいだった。

しかし、現在、教師になることは私の夢にとっての第一段階である。私は教師になったら地域の方々や教職員、さらに、文科省と一致団結をして、生徒に、教育活動や特活、道徳や総合的な学習の時間を充実に過ごしてもらおうことだ。もちろん、学校生活以外のことにも励むつもりだ。私も吉崎先生と考え方が同じで、個人の力ではどうにもならないと思っている。そのことを、現教務部長の立場から具体的に教えてもらったことが、一番の収穫である。

非常に雑ですが、これで私の感想を終えたいとおもいます。

最後に、この大学に入学して、この講義を受講できたことを、私は生涯忘れません。本当にありがとうございました。これからも何卒、お願い申し上げます。

稚内北星学園大学のホームページでは、次のように発信した。

本学で「道徳教育」の研究授業が行われました。

新学習指導要領において、「道徳」は、これまで以上に重要な時間として位置づけられました。そこで、本学教職課程の「道徳教育論」でも、理論面に加えて実践面の強化をはかるため、今年度から前稚内中学校校長の平間信雄先生をお迎えしました。

5月14日の4限目、「道徳教育論」の時間に、稚内中学校で道徳教育推進教師をされている吉崎健一先生をゲスト講師として、「道徳を教えることができるか！夢 教材化 授業への挑戦」と題した研究授業を行いました。

ゲストとして、稚内市教育委員会教育部長で本学理事である表純一部長、稚内中学校校長菅野剛先生、稚内西小中学校校長但田勝義先生が参加されました。

吉崎先生には「教師への夢～現在・過去・未来～」というテーマで講演をいただきました。教師の原点ともいえるお話に、未来の教師を目指す学生たちは、自身の思いを重ねたことでしょうか。このような機会は、稚内に一つしかない大学だからこそ持ち得たものです。

この貴重な経験の生かし方としては、学生たちによる道徳の授業を計画しています。

『わくわくして参加』 道徳授業応援団 菅野 剛氏 (稚内中学校長) の感想

わくわくして、一学生になったつもりで参加しました。表部長さんが、30年ぶりかな、大学の教室に入るのは、といていましたが、私も同じ思いを持ちました。

学生が、国会議員の卓上にあるような手作り名札を用意してくれていました。趣向がおもしろい。うれしい。なかなか、やるね。その後の、講義に参加する真剣な姿勢、和やかな協議、スピーチなど、ぜひ、宗谷の教員になってほしいという思いを強くしました。全力で応援していきたいと思います。

吉崎先生が自己開示しているので、安心して授業に入っていけます。応答的な関係を作り、講義が進みます。解釈を押しつけない、それぞれが考えたことはそれでいい、これ、道徳の授業では大事ですね。吉崎先生の基本スタンスを感じました。心を開きあい、ともに考えあう雰囲気づくりをする導入、これも実際の授業でも大切になるポイントと納得。

小学校時代、教師を目指すことになる担任との出逢い。がむしゃらに頑張った新卒時代。荒れる中学校での実践。教師人生の支えとなる本・人との出逢い。地域・保護者に支えられ、不登校の子と向き合った実践。話にぐいぐい引きつけられ、あっという間に40時間がすぎました。学生の皆さんも私と同じようでした。

吉崎先生の教師物語に感動をもらった時間でした。これからの「教師への夢」が大きく大きくふくらみ、響き合い(愛)が生まれた講義でした。道徳の授業はつまるところ、丸ごとの生き方にふれ、自分を見つめ、よりよく生きる糧をうけとることに つきます。自分で自分という人間を豊かにしていくことに つきます。吉崎先生自体が素晴らしい教材でした。

裸になった教師がいる。子どもたちも裸になってやりとりをする。おしつけではなく。教材をなかだちに、人間に出会っていく。それがだいじだなあ。強く思いました。まるごとの人間、人間の真実に出会っていく。美しさ・醜さ、弱さ・強さ・勇気、悲しみ・喜びにふれ、自分の心と響き合わせる時間を持つこと。自分を見つめ、迷い悩みつつ、選び取りながら生きることを確認する。頭で考え、心で感じ、からだ全体で納得する。または、立ち止まったり、迷いつつ進む。そういうことをぎゅっと凝縮した時間をつくり出す。それがポイントだということを感じました。

それにしても、こういう取り組みができること自体、信じられないことです。今まで経験したことのない、実験的な取り組みなのでしょう、みんなで作り上げていく、今後の展開が楽しみです。

『教育のロマン』 道徳授業応援団 但田 勝義氏(稚内西小中学校長)の感想

講義前の雰囲気はどうしても自分の学生時代比べてしまいます。声の小さい教授の講義はほとんど居眠り状態。小うるさい教授の講義は聞いたふり。単位を落としたりしたら困る講義だけはちょっと真剣に。これが私の学生時代。今日の様子は違った。私が驚いたことは、参観の人がいるならもっとちゃんとした服装で来るべきだったと悔やんでいたこと。遅れて入室しても一番前で講義を聞く姿勢。何よりも最後まで頭が下がらない真剣さです。50歳を過ぎたおじさんには、「今風の学生…」とは完全に違って感心しました。

宗谷の先生方には、教師になる夢を持った希望の過去と挫折と絶望にうろたえる苦い過去があります。その時期にしっかり子どもと向き合った経験が今の「宗谷の教育」を支えています。吉崎先生の話はまさにその典型。宗谷の先生方には、一緒に歩んできた子どもや同僚に託す夢ある未来と愛に包まれた幸せな子ども達を育むロマンがあります。北星学園大学とその学生がその主人公が一言感想です。

自分のつたない経験とリンクしてなぜか嬉しくなりました。これも今日のこのメンバーの今日のこの雰囲気だから生まれたことだと思います。この機会を与えていただいたことに感謝申し上げ、今後の関わりに期待して感想とします。ありがとうございました。

『崇高な取り組み』 道徳授業応援団 表 純一氏 (稚内市教育委員会 教育部長) の感想

33年の時を超えて大学の授業を受ける(聴講する)機会を得ることができ、大変感謝しています。

私は教員ではないので、専門的な評価はできませんし、するつもりもありませんが、1時間以上の時間が非常に短く感じ、かつ楽しく、充実しており、もう一度聞きたくなる授業だったと思ったのは、私だけではなかったと思います。

特に今回の授業の中心であった吉崎先生の話は、教師を目指す若者の気持ちを揺さぶる素晴らしい内容で感動しました。

文部科学省は児童生徒の心に響く道徳授業を推進していますが、まさにその真髄を見た境地であります。

平間先生はいつも吉崎先生をスーパー教師と呼んでいます。その吉崎先生にとっても普段教えている中学生とは違った刺激があり、今後の中学生に対する授業や教材研究にもきっと大きなプラスになると信じております。

今回の授業を企画した池田先生、平間先生の洞察力の深さに感心すると共に、平間先生が稚内北星大学の非常勤講師に就任するにあたって、そのきっかけづくりに携わった、私自身を少し褒めてもいいのかなと思った時間でもありました。

地域の教育力を十分に活用しながら、未来の地域の教育力を高めようとする崇高な取り組みの成功を願ってやみませんし、その期待に大学生諸君は、きっと応えてくれることと信じています。

Ⅳ 学生による道徳研究授業をめざして

(1) 稚内西中学校の願いに応えるボランティア活動

大学が授業を通じて地域に開き、連携を継続的するためには、教職員間の連携だけでなく、学生を中心に、双方向型の連携を創ることが重要である。

4月23日、学校訪問の際、稚内西中学校校長から「北星大学の学生さん達に勉強ボランティアを頼みたい」との教育相談が持ち込まれた。

その時に構想したのが学生達による『道徳の研究授業』である。

具体的には、稚内西中の要請に応じて学生は勉強ボランティアでがんばる - その代わりに、稚内西中は学生による道徳研究授業に協力するという双方向型の協力協働の関係である。

このことを学生達に話したとき、学生たちは真正面から受け止めてくれた。学生達の『やる気』はすでに育っていた。ほとんどの学生が自発的に受け止めて稚内西中学校が企画する『土曜真剣ゼミ』にボランティアとして参加する意思表示をしてくれた。この数年間創りあげてきた学校現場と大学と

の学生ボランティア派遣体制の実績がこうした学生を育てていた。

稚内西中学校からは「学生ボランティア年間計画表」が示された。その内容は中三の生徒7人を対象に、5月30日から隔週土曜日、二時間程度の学習支援ボランティア（数学・英語）を行うというものだった。この取り組みは現在も継続している優れた実践でもある。学生自身のやる気が稚内西中学校での道徳研究授業開催の条件を切り開いたのである。

(2) 自作の道徳教材づくりの可能性と限界性

道徳授業の楽しさを学んでも自作の道徳教材を創るとなれば、困難性が先に来る。そうならないように自作の道徳教材を構想化するワークシートを開発してみた。(表1)

ワークシートは教材のテーマについて考えるようにするのが一番の目的。最初はテーマに迫る言葉を書き出す。さらに誰から、いつ、直接か、電話か、手紙かなどを想定し、書き込む。また、字数は800字から1200字程度。また会話から始めるなど読み手の興味を引く方法もあることを補足して説明した。また自作教材を授業で使う対象学年は、稚内西中学校三年生とし、中学生用の「心のノート」や教科書会社発行の「道徳教科書」なども見せて教材づくりのイメージを構想した。

ワークシートは学習指導要領が示している道徳の「四つの視点」を意識し、テーマに沿った具体的事例を書き出し、考え方に順序を与えるようにして書くことの抵抗感を少なくなるように配慮した。

初めての挑む道徳の自作教材づくりは私が予想していた以上に困難を極めた。制作のために計画していた「三時間の演習時間」では完成できなかった。やむなく『宿題』とし、後日完成させた生徒がほとんどであった。また最後まで完成できなかった学生もいた。想像力に乏しい学生や書くこと・考えることの苦手な学生の実態を見せつけられた思いもしたが、学生達は悔しさも含めて『チーム力』でカバーしようとするやる気も育っていた。

思いもよらない学生の欠席や病気入院などさまざまな事情も重なったが、八人の学生中完成した学生五人。稚内北星学園大学の学生による『五篇の道徳教材』が完成した。この段階では未提出者が三人だが、「八人の学生による『五篇の代表作』に置き換えて、この苦労を生かそう」とあらゆる取り組みで呼びかけた。

表1 (自作の道徳教材づくりワークシート)

<p>「自作の道徳教材づくりに挑戦」</p> <p>約束事 ①自作の道徳教材の主人公は、あなたです。</p> <p>②『教師にアコがれた自分』・『教師になろうとする自分』の舞台設定とします。</p> <p>②そのうえで、実話教材・架空教材のいずれでもかまいません。</p> <p>③「別紙」(道徳の内容項目)の道徳指導要領の重点項目を確認してください。</p> <p>1. 道徳教材のテーマ(題材)を定めましょう。</p> <p>2. 主人公の名前を定めてください。</p> <p>3. テーマに迫る一言を定めてください。</p> <p>①その具体的な言葉を書いてください。</p>

にも替え難い経験となったことでしょう。

思えば、大学にとって初めての試みである「道徳教育論」の授業それ自体が、生きた道徳の教材でした。

このような貴重な機会をもたらして下さった、稚内市教育委員会教育部長で本学理事である表純一郎部長、稚内中学校校長菅野剛先生、稚内西小中学校校長但田勝義先生、稚内中学校道徳教育推進教師吉崎健一先生、そして本学講師の平間信雄先生に心より感謝いたします。

(4) 道徳自作教材『代表作・五篇』の紹介

『あの一言』 建部 清史

中学生の僕は悩んでいた。

勉強の事や友人関係、恋愛など、日常生活での悩みがあった。

誰にも相談できず、自分で考えれば考えるほど悪い方に行ってしまう。

そんな中悩んでいる僕に、気づいてくれたのが担任の先生だった。

授業終りに先生が

「最近何か考えているようだけど、何か悩みでもあるのか？」

「いえ、なんでもないです。」

「そっかそっか、先生でよかったですらいつでも相談に乗るからな。」

言いたくない僕の気持ちを察してくれたのか優しく声をかけてくれた。

しばらく僕は悩む毎日を送った。

そんな中、個人面談があるということで、進路も決まっていない僕はやりたくなかった。

個人面談当日、僕は相変わらず考え事をしながら授業を受けていた。

そして面談の時間となり先生がいる別の教室に入り席に着いた。

「それでは面談を始めます。」

といい、先生と僕は成績や進路について話し合った。

もう終わりそうになった時、

「今日も授業中考え事していたけど、まだ悩んでいるようだね。」

「でも大丈夫なので。」

と僕は弱々しく言った。

「そうか、でも悩みは誰にだってあるものだよ。」

人はみんなそれぞれ違う悩みを必ず持っている。そんな中でその悩みとどう向き合っていくか、どう乗り越えて行くかが重要なんだよ。

でもそれは簡単なことじゃない。苦しい悩みからは逃げ出したいと思ったりもする。

先生の知っている言葉にこんな言葉がある。

冬は必ず春となる。

季節の冬というのは必ず春になるのはみんな知っていることで、その冬をとて辛いつ、苦しい時に例えて、どんなに厳しい冬でも乗り切れれば必ず春が来るとのことなんだ。」

「でも先生、その季節と悩みがどう繋がるんですか？」

「それは季節が変わるのは自然の摂理で、人間だってその中で生きている。だから人間にだってあてはまっても当然のことなんだよ。

だから今は厳しい冬かもしれないけど、季節が変わると同じように春は必ず来ると確信して、どんなに辛く苦しい悩みでも乗り越えていってほしいと先生は願っているよ。」

「はい、がんばります！」

と言い、僕は教室を出た。

それから僕は相変わらず悩みはあるが、先生に言われてからただ考えるだけではなく自分からその悩みに立ち向かって、乗り越えようと思いつ行動するようになった。

それから必死に勉強して難しいと言われていた高校に合格することができた。

本当に僕は先生に救われました。今の僕があるのも、先生があいつ僕に話をしてくれたからだと思います。

最後に先生が卒業式の時にクラスみんなに言いつ言葉を書きます。

苦勞は力となり

悩みは知恵となり

悲しみは優しさになる

一番苦勞した人が

一番幸せになれる

『人との関わり』 五十嵐 裕一

私には高校までに親友と呼べる友達がいない。また、友達と思える人もいない。私はいつも一人ぼつち。しかし寂しがり屋だから誰かといつも一緒にいる。一緒にいても心から楽しんでいない。また自分では何もできないから何をやるにも誰かと一緒にいる。そんな私に気づき、私は私自身を嫌いになった。そして私は一人になりたかつた。そして人に対して曲がつた考え方をするようになった。私は、高校3年生。

高校生活最後の学校祭に私は参加しなかった。なぜなら第一志望の大学のオープンキャンパスとかぶってしまったからである。別な日のオープンキャンパスに参加することも可能だったが、オープンキャンパスを優先した。その後、集合写真を見てみると、私の姿が写っているわけがなく、少し寂しい思いを感じたが、そんな思いは一瞬だった。

学園祭も部活も終わり、受験一直線な毎日が訪れた。第一志望は小論文と面接だけだった。毎日のように面接の練習をした。そして試験当日。たくさん練習したにも関わらず、プレッシャーに押し潰されてしまった。結果はなんとなく分かっていたが、実際に見てみると今までに感じたことないほどのショックを受けた。お世話になった先生方にショックを隠しながら報告した。すると、温かい言葉を返してくれた。その時私は感動し、目には涙がうっすらと見えていた。

そして私は慌てて第二志望を探していた。その時に稚内北星学園大学を卒業した先生に、薦められた。結果は合格だった。その後も大学の勉強について行くために、勉強を見てもらった。そして私はたくさんの先生方に支えられ高校を卒業した。

そして私は曲がった考え方と一緒に稚内へと来た。友達はいらないと思っていた私だが、稚内に来てすべてが初めてで気分が落ち込んだりいろいろと迷惑をかけた。そんな中でも、いつも助けてくれたのは友達だった。私ははじめて友達と呼べる存在を知ることができた。

人と関わることでいろいろな考え方や思いを感じることができ、今までできなかったことができるようになり私自身を成長させてくれた気がする。稚内を紹介してくれた先生や助けてくれた友達に感謝しつつ、これからも私自身を成長させるため様々な人と関わりを持って行こうと思っている。

『人生の転機』 秋庭 亮太

僕は泣き虫だった。

小学校1年の頃は学校が嫌いで、よく仮病を使ってずる休みをしていた。そのせいで友達は少なく、いつも1人で泣いてばかりだった。グループを組んでもいつも仲間に入れず、つまらない毎日を送っていた。

小学校5年になったある日、そんな僕を見かねた担任の先生が、僕を呼び出して質問した。

「何で君はそんなに後ろに居るの？」

「もっと前を出て発言していいんだよ。」

最初の頃は、正直うっとうしかった。どうでもいいよ、放っといてくれとも思った。

ただ、しばらくして、先生の質問は僕に対する提案に変わっていった。

「班長をやってみない？」

「次の授業で発表してみようか。」

そうやって、僕にどんどん前に出る機会を与えてくれた。

でも僕は、誰にも相手にされないかもしれないというイメージが頭を離れず、それからも前に出ら

れずにいた。

そんなある日、懲りずに泣いていた僕に見かねた先生、が誰もいない教室に呼び出した。そして、黒板にこんなことを書いてくれた。

『挑』と『逃』の二文字である。

そして、こういった。

『『兆』という字には、『兆し』、つまり『可能性』という意味があります。手を使って『挑む』か、足を使って『逃げる』か、君はどちらがいい？』

その言葉を聞いた時、僕は強く決意した。どんなことに対しても挑むことを覚えたのだ。

それからの自分は、授業中は発言の回数が増え、班長も務め、友達も増えていった。何よりも大きく変わったのは、泣き虫ではなくなったことだ。もしこの先生がいなかったら、今頃僕はつまらない人生を送っていただろう。

その先生のおかげで、今では教師の道を目指している。そしていつか、僕に大切なことを教えてくれた先生と同じように、皆に自分の大切なことを伝えていきたい。

『国境を越えて』 佐藤 徹章

最北端の街、稚内に春が来た。

大学生のテツヲもいよいよ三年生だ。

「ディ君、どうしてるかなあ・・・」

とっても大事な友達だった。

でもこの春に引っ越してしまった。

今、札幌で新入社員として働いている。

2009/05/26 19:30

From:Dipesh

To:Tetuo

オッス！

ディくん@札幌です。

テツヲ元気？

がんばって勉強してる？

おかげさまで、こっちは元気だよ。

友達に紹介された Let's っていうサークルで、お花見パーティした。楽しかったよ。

来週はバドミントンの予定です。楽しみ！

今仕事も OK です。

三年生の皆さんによろしく伝えてね。

Dipesh

彼の名は、ディベス。
ネパールからの留学生だった。
彼は、慣れない日本での生活に戸惑っていた。
言葉、文化、習慣、食べ物・・・
そして、大好きな家族と遠く離れて。
そんなとき、大学で出会ったのがテツヲだった。

2009/05/26 23:28

From:Tetuo

To:Dipesh

ディくん
メールありがと！
テツヲ@稚内です。
おれはもちろん元気だよ。

花見かぁ。いいなぁ～
稚内は寒くて、花見なんてまだまだありえんで(笑)
ディが居ないのは寂しいけど、
新しい生活をエンジョイしてるようで嬉しいよ。
そうそう、中国から留學生きたさ！
仲良くなれるといいな。
おれだってロシアでは留學生だったからなぁ
ディ君も、そっちの新しい友達によるしくな。

仕事頑張って、はやくカノジョつくれよ！
彼女に会うのも楽しみにしてるからさ。
じゃあまたね。

テツヲ

テツヲがロシアに留学していたときのこと。
言葉が分からなければ、
買い物もできないし、バスにも乗れない。
何一つ自分だけの力で出来なかった。

だから、たくさん助けてくれた友達、仲良くしてくれた友達、

テツヲは決して忘れない。

2009/05/27 21:03

From:Dipesh

To:Tetuo

テツヲ

こんばんは！

ディくん@ Sapporo です。

メールありがとー。嬉しかった。

昨日さぁ、新入社員研修に行ってきたんだ。

それが面白くてねー。

電話のとり方、名刺の交換、あいさつの仕方とか勉強したんだ。

日本人ってキッチリしてるよね～

おれたちの大学に、中国から留学生ってすごいね！

思い出たくさん作れよーおれたちみたいにさ。

冬のお祭りで、でっかい雪像造ってさぁ、ネパール国旗立てたよなぁ。

ネパールでは雪なんてなかったし、

あんなにエキサイティングなことはなかったよ(笑)

それにおれは、

稚内でテツヲに色々助けてもらったこと、絶対に忘れないよ。

本当にありがと。

もちろん好きな子はもういるよー。

まだ、おれの日本語マダマダだから、アタックできなくてさ(笑)

また会って飲むの楽しみにしているよ！

Dipesh

テツヲは今、辞書が友達になった。

『勇二の言葉』 細川 佑太

中体連も終わり受験シーズンに差し掛かっていた。

「入試まであと半年だな。気を引きしめて行こう。」

先生の声が静かな教室で私の心に響く。同級生も受験勉強モードに切り替わったようだ。

ホームルームが終わると、私と勇二は真っ先に教室から去り、彼の家に向かった。

「受験勉強なんかやってられないよな？」

と勇二は笑顔で私に聞いた。私も勉強が嫌いだったので、うなずいた。彼は警察になることを小さい頃から決めていた。そんな彼とこの時期に毎日遊んでいた。私は彼に勉強をすることを勧められなかった。私にも教師になりたいと言う夢があり、そのためには勉強をしなくてはならないことを知っていたが、その現実から逃げていた。きっと勇二も、私と同じ気持ちなのだろう。

家に帰ると、静かな部屋に冷めた晩御飯が寂しそうに置いてあった。両親は私に受験のことを一切触れなかった。夕食を終えて自分の部屋に戻り、音楽を聴いた。私にとって、音楽は心の支えである。おそらく、明日も、その次の日も、同じことの繰り返しなのだろう。そんなことを思いながら寝た。

次の日、明らかに昨日とは違った様子の勇二が、

「話があるんだ。ちょっと付き合ってくれ。」

と言ってきた。断る理由がなかったので聞くことにした。

「俺、どうしても警察になりたいんだ。そのためには高校に行かなきゃなんないだろ？一緒に頑張って勉強しないか？」

勇二の言葉は私の心に響いた。嬉しかった。違う夢を持つ彼が、真剣に将来のことを考え、私を誘ってくれた。私には何かきっかけが必要だったのかもしれない。

この日を境に、私たちは勉強をした。同じ場所で共に行っていたわけではないが、私たちは確かに強い意志をもっていた。

現在、私たちは受験に成功し、高校生活を楽しんでいる。教師になるという夢は今も変わっていない。受験で私が学んだことはとても大きな財産である。目標があれば、必ずそれに対する手段がある。私は勉強が嫌いだったわけではなく、その手段を考えることから逃げていた。

私はこれからも理想を叶えるために、自分の道を歩いて行く。

V 『あの一言』で チーム授業をしよう！

(1) 二つの講座を経て授業に挑戦

当初計画していた授業の流れは、①自作教材の作成完了(6.19) ②菅野剛校長による『道徳指導案作成講座』(6.26) ③但田勝義校長による『道徳授業講座』(7.3)であったが、自作教材の完成が遅れたために授業の流れを変えなければならなかった。

菅野校長による『指導案の作り方講座』(6.26)以前に道徳の自作教材は完成しているはずだった。それができなかったからだ。

そのため菅野剛氏による講座は、学生たちの自作教材との具体的関係については言及できなかった。菅野校長には大変迷惑をかけてしまった。

にもかかわらず、菅野剛氏は 指導案に盛り込む内容 教材研究のポイント 指導案作成のポイント

教材研究の方法～国語を例に～の四つを柱で入念な準備をしてくれていた。そして具体的で専門的な内容と実践的な視点で学生達の話してくれた。最後に良い指導案の条件を表2の通り述べてくれた。

表2 菅野剛氏の「道徳指導案作成講座」から

<p>良い指導案とは (道徳に限定して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自分のものとして切実な課題が取り上げられる。 ② 葛藤が生まれ、授業をつうじて変わる仕掛けがある、深く学び合う仕組みがある。 ③ 思考・話し合いという、子どもの活発な活動がある。 ④ 自己対話が生まれる。 ⑤ 深い満足が生まれる。 ⑥ 道徳では、オープンエンドの展開も良い。1つの方向に整理しない。

二週間後実施した但田勝義校長による『道徳授業講座』(7.10)の時には道徳の自作教材『五篇』が出来上がっていた。

但田勝義氏は「『自作教材五篇』の分析をさせていただきました。①ねらい②インパクト③視点の三領域から感想を述べます」と「自作教材五篇」に対する評価を語り、道徳授業のポイントを五点に絞って詳しく解説し、道徳研究授業への期待を述べてくれた。

さらに、『五篇』の道徳自作教材の中で、誰の作品を研究授業の教材にするかについては、稚内西中学校の教職員集団の検討結果に委ねることを学生に提案し、その労を但田校長に要請した。その結果、『あの一言』(作：建部清史)が道徳研究授業の教材に採用することになったのである。

表3 但田勝義氏の「道徳授業講座」から

<p>道徳授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ねらいを具体化することが大切～板書計画を入念に ② インパクトを与える課題提示の工夫 ③ 説明指示は、短く端的に。書かせることを重視して ④ 「一休」さんがおもしろいのは問答による心の揺さぶり? ⑤ 新しい視点を示すことが大切
--

(2) 道徳授業『あの一言』の指導案

授業表題 日本教育史上画期的試み！！稚内北星学園大学8人の学生による

道徳授業 『あの一言』

・授業日時：平成21年7月17日(金) 14:20～15:10

・授業場所：稚内市立稚内西中学校 3年教室

授業者 秋庭 亮太

生徒 保坂 彩華

飯塚 拓也	須貝 つぼみ
五十嵐 裕一	稲崎 麻香
小嶋 紳介	佐々木 恵梨花
佐藤 徹章	鎌田 結衣
建部 清史	佐藤 諄志
稲部 恵太	井須 大介
細川 佑太	

授業責任者：池田 裕子 (稚内北星学園大学准教授)

授業応援団：表 純一 (稚内市教育委員会教育部長)

但田 勝義 (稚内市立西小中学校長)

菅野 剛 (稚内中学校校長)

吉崎 健一 (稚内中学校教諭)

稚内西小中学校教職員の皆様

授業コーディネーター

：平間 信雄 (稚内北星学園大学非常勤講師)

(稚内市教育相談所所長)

研究主題

「道徳を教えることができるか！ ～夢 教材化 授業への挑戦～」について

実践的な道徳教育論を学ぶためには、家庭・学校・地域との接点を学生に保障し、子どもたちの発達段階や実態に即した関わりの中から道徳教育のあり方を考えることである。

本学ではそのあり方を実現することができた。具体的には学校現場による道徳授業 (学生受講) 学校現場に出かけての道徳授業参観 道徳授業を想定した学生たちによる自作の道徳教材の創作 自作教材による道徳授業づくりの研修 学校現場の協力による道徳授業の実施など従来には前例のない授業課程を準備し、稚内の教育関係者の応援の中で本時授業が実現できた。

稚内中学校 吉崎健一先生による「教師の夢 現在・過去・未来」道徳授業 (5/15)、『『命・夢・友』について一人一人が考える授業への挑戦』道徳授業参観 (6/19)、菅野 剛校長先生による「道徳指導案作成講座」(6/26)、但田勝義校長による『道徳授業講座』(7/10) など本学の学生に対する学校現場からの大きな支援の中で創造的に取り組まれた。

加えて、今回、稚内西中学校三年生の学級で道徳授業を実施できるのは、本学生の稚内西中学校への数学支援ボランティア活動が隔週土曜日放課後、自主的に取り組まれてきたことで、中学生に学生との日常の関わりが培われていたことも大きな力となっている。

道徳自作教材づくりは学生たちの究極の挑戦であった。学生による自作教材は今回、『稚内北星学園大学発 道徳教科書』(初版限定本) に編集し、その中から今回の授業の教材として一篇『あの一言』

を採用し、道徳授業の実施教材とした。

題材『あの一言』について

稚内西中学校三年生（7名）は進路選択時期にさしかかっている。どの高校に行くか、どんな職業を目指すか、どんな人生設計を描くかなど漠然とした悩みから具体的で現実的な悩みを捉えながら生きている。

『あの一言』は作者の中学校時代の体験と稚内西中学校三年生へのメッセージとを重ね合わせた創作教材である。

本授業では、①自分を見つめる深さと広がり、②子どもを見つめる教師や大人の人間としての深さと広がりを通して、③限りなく成長できる人間の可能性を考えてみたい。

授業の展開にあたっては、チーム授業を基盤にするため、授業の深みが生まれにくい等の限界も考えられる。しかし、子どもたちと学生の授業を通じて心の絆と交流が一層強まることも予想できる。

最後に本授業は稚内市教育委員会の絶大なる支援と小中一貫教育体制づくりの模索から生まれて、学校間連携が『飛火』した画期的産物としての『中大』連携授業であり、その成果は測り知れないものであると考える。稚内の教育の今後の可能性を示しているとも言える。

本時の目標

- (1) 本時教材を読み、自分の心との対話をすることができる。
- (2) 今の自分の心の葛藤を仲間や授業者チームに伝えることができる。
- (3) 明日から気持ちを奮い立たせて、意欲的に頑張る自分を考えることができる。
- (4) 人間のあり方の基本 人との関わりの中で生きることのすばらしさを学ぶことができる。

本時の展開(1/1)

- (1) 「導入・展開・まとめ」の三節で50分のチーム授業とする。
- (2) 授業づくりの視点は、次の通りとする。
 - ①板書計画は板書係が入念にプレート作成
 - ②インパクトある導入と教材の提示
 - ③紹介・説明・指示は短く、端的に
 - ④書くことは考えること、そして伝えることを基本原則に

授業準備分担

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) ポスター作り・学校持参・挨拶・掲示 | 佐藤 |
| (2) メール連絡 | 稲部 |
| (3) 授業者の役割分担 | |
| ・メイン授業者 | 稲部 |
| ・学生代表A | 小嶋 |
| ・学生代表B | 飯塚 |

- | | |
|----------------|-----|
| (4) プレート作り | 五十嵐 |
| (5) 板書係り | 佐藤 |
| (6) 写真 | 平間 |
| (7) 映像 | 須摩 |
| (8) 授業前の職員室挨拶 | 秋庭 |
| (9) 授業後の " | 細川 |
| (10) 感想文の用意・回収 | 細川 |
| (11) 教科書づくり | 平間 |
| (12) 指導案印刷 | 平間 |

授業案

授業素案を作りましたので、各自の役割が決まったなら話し合って豊かにして下さい。

	教師の活動	生徒の活動	時間 (分)	留意点
導入	<p>全員が教壇前に立ち、整列して開始を待つ</p> <p><開始チャイム></p> <p>学生代表A挨拶(小嶋)</p> <p>「～ 挨拶 ～」</p> <p>自己紹介(全員)</p> <p>全員で気合を入れて</p> <p>「はじめます」</p> <p>「気をつけ」</p> <p>「礼」</p>	拍手	10	
展開	<p>本時の題材を提示する (稚内北星道徳教科書)</p> <p>指名読みの中で、心が動いたところにアンダーラインをつけることを求める</p> <p>アンダーラインの発表を生徒に求める (生徒全員)</p> <p>生徒の発表の中からその理由を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深くうなずく(共有) ・共通理由をつなげる(共有) ・深い発見理由は共感する(共感) 	<p>教科書を開く</p> <p>各自がアンダーラインをひく</p> <p>発表</p> <p>自主発表・挙手発表</p>	30	<p>机間巡視</p> <p>予想プレートを配る (五十嵐)</p> <p>プレートがない場合は板書する(佐藤)</p> <p>拍手・関連づけ強調などの指導言を!</p>
まとめ	<p>「あっ」という間に時間が過ぎてしまいました。</p> <p>それでは、まとめに入ります。</p> <p>全員が教壇前に集合</p> <p>学生代表B挨拶(飯塚)</p> <p>「～ 挨拶 ～」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一生懸命勉強してくれたことへの感謝 2. 感想文を書いて欲しいことのお願い <p>ベルと共に終わりの挨拶</p>	<p>生徒集中</p> <p>感想文作成</p>	10	感想文回収

評価の方法

- ◇ 生徒の感想文から本時目標が達成したか
- ◇ 学生自身の自己評価・相互評価から本時目標が達成したか
- ◇ 授業参観者からの感想で本時目標が達成したか
- ◇ 7.24最終講義(池田准教授)の中で本時目標が達成したかの意見
- ◇ 授業応援団の方々の感想から本時目標が達成したかの意見

(3) 道徳授業『あの一言』の生徒感想

2009/07/17

名前	項目	感想	ズバリ！今日の授業を五段階評価で!?	
			面白かった度	ためになった度
	きょうの授業に向けて8人で頑張って準備しました。『良かった』『素晴らしかった』ところがあればほめてください。	私たちはもっと授業が上手になりたいです。きょうの授業でこうすればもっと良くなるところを教えてください。		
保坂 彩華	私達にわかりやすく話してくれたところがとても良かったところです。これから試験までの支えとヒントになることで学んでよかったですと思いました。	私は特にこうすればよかったなと思うことはありません。	5	5
須貝 つぼみ	分かりやすかった。内容も好きなものだったので聞き入ることが出来た。	やわらかく話したらよいと思う。	4	5
稲崎 麻香	教科書を作ってくれたこと。(先生はパソコン使うのが苦手なのでそのようなことはない)面白かったこと。	返事のしやすい問いかけをすること。また気楽に答えられる雰囲気を作ること。	4	4
佐々木恵梨花	発表の時にみんなに当ててくれて良かったです。あてくれなかったら一言も話さなかったと思います。あと楽しかったです。今日来てくれた人はおもしろかったです。(とくに稲部)	なし	5	4
鎌田 結衣	わかりやすいところが良かった。	今のままで良いと思います。	4	5
佐藤 諄志	このしりょうの内容が素晴らしかった。またやってみたい。おもしろかったです。	いろんな人でもっとやってみたらおもしろいと思う。	4	3
井須 大介	担任には非常に申し訳ないけれど道徳の授業はこっちのほうがためになると思う。身近な話題だと入りやすい。	特に思いつきませんが感想用紙がちょっと見づらいです。	4	4

(紙面の都合上、稚内西中学校教員の方々の感想は割愛します)

VI 地域と連携した『道徳教育論』の成果と課題

研究授業を終えた学生達は大きな喜びと充実感を感じていた。
それは確かな成長の証であった。

稲部 前日は緊張して遅くまで指導案検討をした。指導案に赤で書き込んで授業に挑んだ。池田先生から個人的にアドバイスをもらった。果たして生徒は気持ちに乗ってくれるだろうか…不安でいっぱいだった。しかし、何とか乗ってくれたと感じた。嬉しかった。

飯塚 自分は授業終了の『最後の挨拶』のことばかりを考えていた。そのことに頭がいっぱいで、みんなの話は横で聞いていた。『最後の挨拶』ができてホッとした。

佐藤 「6.26事件」(偶然にも3分の2の学生が欠席した偶発的事件を指す)以降、自分はみんなのために出来ることをやろうと決意して関わりました。ポスターづくりと各学校訪問掲示などを通してみんなで協力してやることの大切さを経験しました。

研究授業では『キーワード』の言葉が生徒からたくさん挙げられたのに、特定の言葉にだけ二重線を引いてしまった。失敗だった。

細川 吉崎先生や教育部長さん、そして校長先生に、直接触れあうことは大変ありがたい。私は集団行動が苦手なので、今回チームを決めて取り組んだことが楽しかった。チームはいまいちだった。ストレスがたまったときもあった。そんなとき先生達は何でじっと我慢していることが出来るんだろうかと思った。しかし、後日、それが『包容力』なのだと気付いた。

秋庭 生徒が集中していた。稲部君が途中で笑いを入れた。僕は撮影する側にいてそこに集中していた。みんなで創りあげた授業でした。満足感でいっぱいです。

建部 扁桃腺で入院してしまい研究授業に出席できなかったことが残念だった。

でも自分の道徳教材が選ばれて嬉しかった。喜びを感じた。これからは授業には必ず出席すること。体調を壊さず、健康でいたい。

五十嵐 私は他の人に話しかけることが苦手な人間です。そんなわけで一步一步それを克服していきたいと考えていました。今回もそのことを意識して授業に臨みました。本当に良い経験をしました。

また、授業応援団の三氏は学生への激励、道徳授業の感想、今後の期待を語ってくれた。

菅野剛校長 すばらしい取り組みだった。道徳は価値との出会い。自分と対話し、自分を変容していくことだと思う。七人の生徒が授業を通じて自分を修練させ、自分を変容していくことの出来る研究授業だった。

自作教材もすばらしかった。教材の開発ができた。それぞれの立場で自己開示をする決意があったから出来たのだと思う。

授業も良かった。授業者も良かった。笑いもあり自己開示も出来ていた。

但田勝義校長 個人プレーと集団プレーについて話題になりましたが、どちらも大事です。

残念ながら授業の時に入院していた建部君、いつでも稚内西中に来てください。歓迎します。(笑)

今回の研究授業は西小中教職員の校内研修にも位置づけて取り組みました。西中の先生達の感想を

紹介します。

- ・「一生懸命だなあー」と感じた。真剣・真摯・熱意を失ってはいけないなあと改めて感じさせてくれました。
- ・優れた自作教材だった。自分のことを鏡にしてそのことを正直に書き、みんなで考え合うという授業だった。そのねらいは生徒に伝わったと思う。
- ・「悔しいです！」生徒は私たちより集中していた。
- ・『チームとしての研究』の必要性を教えられたような気がする。
- ・22歳の新米教師です。約一年前の今頃を思い出して比較しました。
「夢に向かって努力する」ことの大切さを改めて感じました。

表純一教育部長 私自身の学生時代、道徳といえば、反道徳的で既存の価値を壊すような感覚で過ごしてきたような気がする。(笑) そんな私でも先生と出会って人生がかわったと思う。授業で話してくれる先生の話が待ち遠しかった思い出がある。教育とは、子どもは先生が好きになって、学校が好きになって、勉強が好きになっていくのだと思う。夢に向かってがんばってほしい。

.....
北海道新聞や日刊宗谷等のマスコミもこの道徳の研究授業を報道し「道徳授業は教職課程で初めての試み」「分かりやすい授業」「リハーサルを重ねて細かく指導」など好意的に紹介してくれた。(新聞記事参照)

今年度の道徳教育論の成果の第一は『地域に開かれた大学』をめざし、地域教育資源をフルに導入することをめざし、優秀な方々をゲスト講師に迎えて授業が充実したこと。第二は学生自らが初めて道徳の自作教材づくりに挑戦したこと。第三は稚内の学校現場の全面的な協力を得て、自作教材の代表作で道徳授業を実施したこと。そして第四は何よりも学生自身が教師になる自覚を高め、自主的・自発的に授業づくりに取り組んだこと。

学生自身が意欲的に関わってこそ授業は充実する。その意味で今回の道徳教育論の授業展開は大きな成果であった。

今後の課題は

- (1) 筆者自身をはじめて大学の道徳教育論を担当したこともあり、授業計画の確定が遅れてしまった。地域連携を重視するためには時期を早めた計画づくりが必要である。
- (2) 特に地域連携の要となる授業応援団・ゲスト講師の依頼は早期に確定し、大学として『依頼』する場面をもつなどの工夫や配慮が必要であった。
- (3) 授業計画が終了した段階では、成果や反省、次年度の改善課題などを含めた『懇談の場』を設ける必要があった。
- (4) 学生による道徳の自作教材づくりに費やす時間は、全体の計画から見てこれ以上保障することはできない。今後は何らかの工夫が求められる。
- (5) さらに、自作教材づくりは学生個々の力の差が生まれやすい。そのため演習時間が「間延びした」の声もあった。演習内容・方法についての改善が必要である。

(6) 教職課程の科目として学校現場との日常的な関わりの持てる方策を模索したい。

VII まとめにかえて

学校現場は、道徳を教えることのできる豊かな教育機能・集団機能を兼ね備えた改善が求められている。稚内の学校では「日常生活に生きる道徳的実践力」をめざし、「家庭や地域と連携した豊かな心の育成は、地域対話活動がその貴重な実践場面となっています。」として地域社会との関わりを重視した取り組みを強調し、「すべての教育活動を通して総合的に道徳力を培っていく必要がある」としている。大学にとっても稚内という地域は道徳教育論の実践面を強化できる『地域連携のフィールド』でもある。

個人であれ、集団であれ、地域社会であれ、人と人との『関わり』を通じて豊かな心は醸成される。その意味で学校の道徳授業は直接体験を通じて子どもたちの心を揺さぶり、達成感や充実感が享受できるようにする意図的・計画的な教育活動でなければならない。またその教育の担い手である教師には、広い意味での総合的な力量が求められている。

今日求められる教師の総合的な力量とは、教育の特質を踏まえた力量である。教育の特質とは人格性・科学性・総合性・地域性・歴史性であり、この特質を踏まえた道徳教育の実践家を育成したいものだ。

稚内北星学園大学が道徳教育論の授業づくりを通じてこの課題に挑戦できたのは、張江洋直学部長・池田裕子准教授の深い理解があったからである。またこの授業計画をダイナミックに推進できたのは、四氏の授業応援団をはじめ、道徳教育の研究授業会場を提供してくださった稚内西小中学校の教職員の皆様の深い理解によるものであった。関係諸氏の尽力があったからこそ『開かれた』道徳教育論の授業を計画し、実践することができたのである。心から感謝したい。

学生達はこの授業を通じて「豊かな心」を育成する「点」や「線」、そして「面」に至る道徳教育の青写真を描いた。その授業は「見事だった」(張江洋直教授)そして「今後教師を目指す学生にとっては何にも替えがたい貴重な経験」(池田裕子准教授)であった。この財産と教訓を次年度に生かしたい。

● 英文タイトル

Creating a "theory of moral education" in cooperation with regional partners

● 英文要約

The purpose of this essay is to introduce a practice in the class of "theory of moral education" in Wakkanai Hokusei Gakuen university. Our teaching activities are based on following five pillars: 1. cooperating with outer teachers; 2. organizing supporting group; 3. deciding a theme as a basis of cooperation; 4. helping students develop teaching materials; 5. having practice in class of junior high school.

These five pillars are not only the main features of our teaching activities, but the incentives for students to work hard.

● Keywords

practical theory of moral education,

creating theory of moral education,

outer teacher,

supporting group for class

theme of class

teaching practice by student

developing teaching materials

日刊宗谷

7月 19日(日曜日)
 平成21年 日 刊
 発行所 稚内市開運2丁目1番8号
 株式会社 宗 谷 新 聞 社
 電話 営業☎35010番 編集☎35011番・F☎35012番
 (購読料1ヵ月1,200円 定価1部50円消費税込)

星生 北大 稚内園 自作教材で授業 西中で教育現場体験

稚内北星学園大学3年生6人は17日、稚内西中で自作の教材を使った道徳の授業を実施。中学生たちは、わかりやすい授業のなかで自分の考えや想いの主張、文章をまとめる力などを養った。

この授業は、同大学で教職課題の「道徳教育論」を学んでいる学生6人が、実際に教育現場での授業に挑戦したいと、今回が初の試み。同大学講師や市内中学校教員などから授業の進め方や指導に関するアドバイスを受け、先月から準備。また、メンバー同士でリハールを重ねて細かく確認し、教材の作成にも力を入れて来た。

今回は西中3年生7人が対象。自己紹介では自分の青春時代について語り、中学生とコミュニケーション。授業は、自作の教科書を使い、「あの一言」と題した物語で道徳学習。高校受験に臨む中学生の心境を捉えたストーリーで、生徒たちは自分と重ねながら文章を

順番に音読。読んだあとは、物語の印象や感動した場面など自分の感想をまとめて発表した。

同大学では今後も、市内各学校での授業を行ないたいとしている。(梅津真二)



西小中で行なった大学生による授業

留萌・宗谷 30

2009年(平成21年)7月23日(木曜日)

北海道新聞

稚内西中生対象 「進路」テーマに

北星学園大生が実習

【稚内】稚内北星学園大の学生がこのほど、稚内西中で3年生に「道徳の授業」を行った。教職課程の実習での初の試みで、進路選択の問題をテーマに、自分の悩みなどに立ち向かうか、取り組み方をアドバイスした。

教職課程の学生は5月から月2回、西中生に放課後、ボランティアで数学を教えている。授業はその連携の延長として行われた。道徳の授業では既成の教材を使うことが多いが、今回は学生の実体験と西中3年生へのメッセージを重ね合わせた教材を自作した。



同大3年、建部清史さんの「あの一言」という教材で、中学時代に担任からかけられた「人はそれぞれ違う悩みを持っている。どう乗り越えていくかが重要」などの言葉が載っている。北海道新聞で同大の「キャンパス通信」を務めている稲部恵太さんが先生役で、生徒たちに感想を

稚内西中3年生に授業をする稚内北星学園大の学生(右)

述べさせたが、うち解けて笑いがもれる場面もあった。

西中の但田勝義校長は「生徒には刺激的な授業だったと思っし、学生にも勉強になっただろう」と話していた。(片岡澄江)



